

(議長)

健康推進課所管予算、並びに関連議案について補足説明を求めます。

「健康推進課長」。

「健康推進課長」

はい。健康推進課が所管している予算についてご説明致します。

最初に一般会計所管分についてご説明致します。所管する科目は、3款民生費、4款衛生費、でございます。

予算資料でご説明致します。頁は10頁・11頁でございます。

民生費でございます。当課所管分は番号90、介護保険特別会計繰出金、103、生きがい交流センター管理、104、在宅型総合福祉施設管理、105、子育て応援券交付事業、110、子ども発達支援推進でございます。

番号90、介護保険特別会計繰出金でございますが、前年度より281万1千円の増となっております。主な理由は、地域支援事業の事務費分の増額でございます。

番号105番、子育て応援券交付事業でございます。2年目を迎える事業でございます。28年度は購入できる品目を増やし、利用しやすい仕組みとなるよう取り組んで参ります。

番号110番、子ども発達支援推進でございます。発達支援関係職員による地域づくり研修でございます。28年度は3年目になります。参加呼びかけの関係機関を拡大し、支援が必要なお子さんへの環境整備について検討して参ります。他の事業は前年同様の事業でございます。

衛生費、保健衛生費総務費でございます。番号117から125までが所管している事業になります。前年同様の事業の、事業内容でございます。予防費でございます。番号128から140までが所管している事業になります。28年度は母子保健、定期予防接種事業に、日本脳炎ワクチンが新たに定期予防接種に追加されたため、必要経費が増額となっております。65歳以上インフルエンザ予防接種の助成額、1,400円を1,600円に増額致しました。また、27年度作成した健康増進計画を推進するために、減塩レシピと江差体操を開発普及し、町民の健康意識の底上げを図って参ります。以上で一般会計所管分の説明と致します。

次に介護保険特別会計の予算についてご説明致します。予算資料31頁、介護保険特別会計予算構成表をご覧ください。28年度は第6期計画の2年目であり、また、29年4月からの介護予防、日常生活支援総合事業に向けて移行準備、事業展開をしていく年になります。

28年度予算の歳入歳出は、歳入歳出総額は前年度より452万2千円の増となりました。保険勘定におきましては、総務費一般管理費のシステム改修、認定調査費の調査員賃金が減額、地域支援事業、介護予防事業の人件費等が減額となっておりますが、地域支援

事業の包括的支援事業、任意事業において増となっております。

新たな取り組みと致しましては、一つ目として、地域づくり整備事業であります。生活支援コーディネーターを1名配置、地域に出向き、意見交換等を進めながら、地域資源や地域課題等の把握をして参ります。また、年度内には生活支援協議体を設置し、情報の共有、ネットワークづくりや、生活支援サービスの仕組みづくりの検討をして参ります。

二つ目として、地域ケア推進会議の立ち上げを進めて参ります。個別の地域ケア会議の積み上げから見えてくる地域課題を整理し、課題解決の仕組みや手立てを検討し、政策へと結び付けていく会議であります。

三つ目として、適正化事業であります。月額保険料が全道2位であり、人口推計からも今後、高齢化率、認定率、給付率の増加が見込まれることから、新たに主任介護支援専門員を1名配置し、介護認定の適正化と給付の適正化に努めて参ります。

サービス勘定におきましては、前年比20.3パーセントの増となっております。主な理由は、介護予防に係るケアプラン作成委託が増加していることによるものでございます。

以上で介護保険特別会計の予算説明と致します。宜しくお願い致します。

(議長)

説明が終わりましたので、質疑を許します。質疑希望ありませんか。

「小野寺議員」。

「小野寺議員」

はい、なるべく簡潔に。課長、なるべく、昨日は少し新しい事業ということでちょっとなかなかね、具体的な部分でないところもあったかもしれないので、なるべく今出ている部分で、事実関係も含めて、ちょっとお聞きしたいと思うのですが。

最初に1点目、今、最後のほうに、介護保険料の話もちょっと出ました。あの本当に大変だなというのもあります。それで、その、介護保険料の高い背景、色々あるとは思いますが、ま、数字的にわかるところで、まず今現状、江差の要介護認定の部分が、あの今私これ見えています。当初、推計でこれ位だったけれども、やっぱり増えているとか、そういうことも含めて知りたいなと思うのです。例えば、今、課長のところでお手元であれば、これの24頁にあの26年の実績と27年の推計というのもあります。今の動き、押さえている部分で宜しいです。見込みで構いませんので、全体的にどういうように今動いているのか。いわば、江差町民の動きをちょっと聞きたいなというのが1つです。

で、これはあくまでも認定ですから、実際にサービスがどう受けたかということで、課長の方で、もし分かりやすい数字があれば、利用率が増えているとか、もしくは、もしくは課長、今この59頁から、推計見込みしていますよね、事業費。で、これで、お手元の資料の範囲でいいです。あの例えば実績から見て、こうやって見込みを作っているけれども27年度のあの見込み、26年度・27年度も含めて、こんな風にあの伸びているだと

か、伸びていないとかも含めて、要は、江差町が、介護保険料が高いという、そのバックデータのものがどういう状況なのか。事実関係で、まず知りたいというのが1つ。

それから、昨日ちょっと言った、いわば総合事業、あの地域支援事業の中の総合事業も含めて、さらには地域支援事業の中で今度予算化しております、コーディネーターの関係。これも、現時点で予算化した、予算化する部分であの教えて貰えればなと思っております。昨日の話ですと1人、コーディネーターを配置するということでした。あのどういう方を想定しているのか。あの資格的なものだとか、町内・町外含めて。それから、予算措置、賃金であの支援専門員と併せて、320万ってなっていますので、生活支援コーディネーターに関していうと、どういう保障になるのかもちょっと教えて頂きたいなと。で、まいっか。それで、このコーディネーターの方は、結局地域にこう入って、新しい事業の中にあるあの生活支援サービス、さっき町民課の方でも話したのですが、例えばそういう、配食だとかも含めて、地域支援事業に織り込むと、いうことになるのかどうかあれですが、今、担当課で構いません。課長の今の、あのこれからの進め方でいいのですが、どういう地域生活支援サービスをあのこう進めていこうと。そしてそれと、コーディネーターと、地域中に入って組み立てようとしているのか。今の時点で、考えていることで構いませんので、ちょっと教えて頂きたいなと、思います。とりあえず1問目。

(議長)

「健康推進課長」。

「健康推進課長」

まず、コーディネーターの方から、説明させていただきます。コーディネーターの方は、今考えているのは、あのヘルパー2級以上の資格を持っている方を考えておまして。今、江差町内の地域の状況がある程度わかる方をあの考えております。賃金、保障ということなのですが、臨時職員と同じ扱い。保障に関しては同じになります。具体的にどのようなことをということなのですが、まずはあの、コーディネーターの方と職員と一緒に地域の中に入って行って、コーディネーターの方を理解、理解というか知って頂くというところから、始まっていくのかなと思います。その中で、あの色々地域の中で実際にある支援、資源とか。やられていること等を整理していきながら、一定程度の勉強も含めて、進めていく形になると思います。研修会、コーディネーターの研修会というの、あの道、国の方であるのですが、ちょっとまだ日程等が分からないのですが、そちらの方にも参加して頂くことにはなっていくとは思いますが。その中で地域、協議体ということで、団体を作っていく形になるのですが、その中、その運営等も生活し、生活支援コーディネーターの方に協力を頂きながら、という風に進めていくことを検討しております。

あと、介護認定の関係と、それによる状況ですね、サービス利用の状況ということですが、まず、認定に関しましては、あの現在のところ、認定者数が570名、580名くらい。

約、です。はい。そのうち、サービス、全員がサービスを使っている訳ではないので、ちょっとサービスを使っている人数まではちょっと今把握はしておりませんが。はい。給付費の方の増加に関しましてはやはりあの施設の利用が上がると、人数が増えると給付費は上がっていくという状況にはなります。今ちょっと手元にこまい数字を持ってきていないので、ちょっとこの辺で、宜しいでしょうか。はい。

(議長)

「小野寺議員」。

「小野寺議員」

あの、課長ごめんなさいね。答弁漏れですが、そのコーディネーターが役割を果たして、あの生活支援サービスを上手くやってくと。今の時点でどういう生活支援サービスを、これあの総合事業の中の、私は重要な一つになり得ると思っているのです。そこに全部丸投げされてしまったら困るのですけれども、現在のサービスをきちっと補完するという意味合いで、私はやっぱりそれはそれで、使い方によってはすごく大事、いいことだし、そして、そのケアマネじゃなかった、コーディネーターがしっかりと結び付けば、それはそれでいいと思うのです。本当にこの半年位、1年も無いと思うのですが。だから、今のイメージでね、江差町の現存の資源を含めて、どのように今ちょっとこう思い描いているのか、私は知りたいのですよ。なかなかこの間何回か、あの勉強に行ったけれども、ちょっとなかなか私分からなかったの。あのわかる範囲でいいです。

それと、コーディネーターの役割、私はやっぱり町長も執行方針でこうやって書いている以上、本当に大事な役割なのですよね。役割果たせるのかなと思うのですよ。この賃金で。結局、結局本当に国の、あの作られた形で終わってしまう。地域の中に入って本当に実のある生活支援サービスもきちっと、それから地域の需要も、あの掘り起こすとかね、本当になるのかなと思うってしまうのですよね。これは、あの白鳥課長というよりは財政サイドの側面も含めて、きちっとしなかったら出来ないのではないかなと思うのですが、ちょっと改めてコーディネーターの部分ですね、お聞きしたい。

それから、結局江差の介護保険料が高いという部分と、反面しっかりとしたサービスも求められて、それも一定程度、サービスをあの受けていると。ですからなかなか難しい。私も思うのです。思うのですが、資料なかったらないで構わないのですが。要は今、この見込みよりも、この計画作った見込みよりも増えているのですか。あの要するにきつと施設系が増えているということなのかもしれませんが。要は増えている。それから、これから27・28・29も含めて、私もちょっとなかなか江差の言いづらいのは、やっぱり介護保険料が高いというのはどうしてもありますのでね、なかなか突っ込んだ部分は言いづらいのですが。今の、現状をもうちょっと分かりやすく、あの手持ちのデータで分かれば、教えて頂きたいと思います。

(議長)

「健康推進課長」。

「健康推進課長」

まず、生活コーディネーターの関係です。資格は先程も言ったようにヘルパー2級以上ということで、賃金の方もその資格に見合った賃金を、想定して

「小野寺議員」

どの位なのですか。予算措置していますけれど。

「健康推進課長」

はい、金額は月額16万7千円を想定しております。実際にどういう、資源を、創出していくのかということなのですが。あのここに関しましては、行政がこういうことがいいのじゃないかということではなく、地域の方とコーディネーターの方と、行政も含めて一緒に話し合った中でどういうことが必要なのだろうかという風なことを考えていきたいという風に思っております。実際にこれをやってください、あれをやってください、で今までなかなかうまくいかなかった現状というのがありますので、そこはやはり自分達で、皆で考えていこうという姿勢を取っていきたいと思っておりますので、あえて、具体的に考えていることは、ここではお話しません。はい、あと、見込み、給付の見込みに関してなんですが、あの今、計画よりも今年度、今回に関しましては2,000万ほど増の見込みでいます。

「小野寺議員」

全体で、ですか。

「健康推進課長」

全体です。はい。

(議長)

答弁いいかい。

「小野寺議員」

はい、わかりました。

(議長)

次に、「室井議員」。短く。

「室井議員」

はい。あ、短く。はい、わかりました。皆さんに、まず、今回の、予算計上はされてないのですけれども、包括支援という立場で、劇団立ち上げて、皆さん頑張っ、今こられました。私は、なぜそれが大事かという、やっぱり地域の、そういう高齢者と一緒に本当に、身近になって、何でも相談できる。そして、あの高齢者の皆さんが、顔を覚えると相談しやすいと、こう思っております。

それで、あの色々な業務の内容がこれから、たくさん増えて、大変だなどこう思いますがけれども、皆さんが、あの色々な町内会とか、色々なところに行って、これから寸劇を通じて笑えるなか、親しみのなかで、やっていく上で、色々な必要なものが、最小限、必要なものがあるのかなと、私思っております。でも、これは今回、当初予算で載っていませんけれども、その辺は、町長も副町長も十分ご理解されていると思っておりますので、6月補正とか、そういう面で、皆さんにそういう対応をしてくれるのかなと、こう思っておりますので、今後ともですね、予算に、無いのですけれども、地域から色々な要請あったら、大変多忙だと思いますけれども、やっぱり現地行って、皆さんと親しくしてもらおう。これが、皆さんが高齢者本当に助けるのだと、そういう私は思っています。

小野寺さんも先程まで、私がんがんに質問していたのですけれども、皆さんの番になったら笑顔で質問して。だから、そういうことは皆さん同じ思いだと思いますので、答弁は、ね、あのできないかもしれん、担当ができないかもしれないけれど、副町長、あのそういう頑張ってるですね、今あの、健康推進課の皆さんに対して、そういう必要なことはちゃんと相談に乗って対応してみる、もらいたいと、こう思うのですが、その、考え方についてだけお伺い致します。

（議長）

「副町長」。

「副町長」

まさしく、地域包括支援という言葉が、もう、重たい業務になってきております。そういう中で、スタッフの皆さんがそういう地域に入りやすい、劇団といいますか、そういったあの寸劇を通じながら、認知症の理解である等、そういったことを含めて取り組んだのも、私も目で見ております。あの既存予算の工夫も含めて、十分そこは心得ておきます。

「室井議員」

わかった、いいよ。

(議長)

他に質疑希望ありませんので、健康推進課所管予算、並びに関連議案について質疑を終わります。